

2022 年度 雇用者アンケート結果 報告書

1. 総括

2022 年 10～12 月にかけて、2021 年度看護学科卒業生が就職した慈恵大学附属病院および外部施設の施設管理者を対象に雇用者アンケートを行った。附属病院 4 施設へは 29 部署へ配布し 26 部の回答をいただいた（回収率 89.7%）。外部施設へは 17 施設 29 部を配布し 12 施設 18 部の回答をいただいた（回収率、施設 70.5%、62.1%）。

附属病院からの回答では、看護学科の DP1, 2, 3, 5, 6, 7 については、その能力が業務に活かされていると思う割合が概ね 80%を超えていた。外部病院からの回答では、DP1, 3, 5, 6, 7 については 70%を超えていた。DP2「課題解決能力」は 60%程度にとどまった。DP4「地域医療連携能力」、DP8「国際的視野」は附属病院、外部病院問わず、能力が業務に活かしているという回答は低い割合であったが、自由記載より個々の高い興味や能力と努力、今後に期待するという部分に評価が得られている回答も多く、学科での各自の学びは涵養されて素地が作られていることは評価されている部分もあり、今後発揮されることが期待されていた。

本学科での 8 つのディプロマポリシー（DP）は、卒後 2 年目という経験が浅い段階でも、卒業生の職場環境に応じて発揮されている部分を評価いただいていた。この教育環境を維持し、更に学生の能力が発揮できるように、次年度以降、看護学科の教育に取り入れていくため、更なる能力強化を期待したい。まず一点は、調布市大学プラットフォームの活動や地域連携看護学実践研究センター（JANP センター）が勧める狛江調布地区での活動へ学生が参画できる機会を確保し、地域医療連携能力を高めることである。2 点目は、世界の学術論文を電子データベースより検索することで世界レベルでのエビデンスを多彩な手法で検索し、語学だけでは無く、国際的視野で看護のサイエンスを開発できる能力を獲得し、国際的視野に関連する多様な能力を強化することである。DP4 の地域医療連携能力や DP8 の国際的視野に関連する能力を在学中から獲得し、卒業後に看護職者として各分野で発揮できるよう、関心の深さに応じた学びの機会を整え、雇用者アンケートなどを通じて評価していく必要があるだろう。

また、調査を開始した 2019 年以降の 4 年間の経年変化を見ても、コロナ禍で卒業生の DP 涵養が著しく低下されたことは無かった。引き続き、質の高いチーム医療の実現を可能とする優れた看護実践者を輩出するために、本学科の共修学修や少人数制学習を通して、人に深い関心をよせ慈しむ心を持ち、他者や自己の強みや弱みを客観的に内省し、多様な価値観や広い視野を持ち主体的かつ積極的に学ぶ姿勢、思考力と実行力を備える教育と教育機会を臨地実習施設と築き上げていくことが不可欠であると考える。

2. 概要

1) アンケート実施時期

2022 年 11 月から 12 月 23 日まで

2) 対象

看護学科卒後 2 年目が（2021 年度卒業）就職した附属病院および外部病院で現在所属する部署の管理者（所属する部署の師長もしくは看護部長）

3) 方法

看護学科卒業後2年目が就職した附属4病院(附属病院, 第三病院, 葛飾医療センター, 柏病院)と, 外部病院の各看護部長へ卒業生アンケートの趣旨と内容説明の書面と自記式質問紙を郵送した。その上で, 看護部長が卒業生の所属する部署責任者へアンケートを依頼し, 記入した質問紙を同封した封筒に入れて学内便もしくは郵送で返送していただいた。

4) 回答数(回収率)

附属4病院 就職者25名, 配布29枚(附属4病院看護部長含む), 返信26枚(89.7%)
外部病院17施設 就職者29名, 配布29枚, 返信12施設(70.5%)18枚(62.1%)

3. 結果

1) 看護学科で涵養しているDPの能力が卒業生の業務に生かされているか

① DP1 主体的能力

	附属病院(n=26)		外部病院(n=17)	
そう思う	11	(42%)	5	(29%)
まあそう思う	13	(50%)	10	(59%)
あまりそう思わない	2	(8%)	1	(6%)
思わない	0	(0%)	1	(6%)
回答無し	0	(0%)	0	(0%)

② 課題解決能力

	附属病院(n=26)		外部病院(n=17)	
そう思う	2	(8%)	1	(6%)
まあそう思う	19	(73%)	9	(53%)
あまりそう思わない	4	(15%)	6	(35%)
思わない	1	(4%)	1	(6%)
回答無し	0	(0%)	0	(0%)

③ パートナーシップ

	附属病院(n=26)		外部病院(n=17)	
そう思う	4	(15%)	4	(24%)
まあそう思う	21	(81%)	10	(59%)
あまりそう思わない	1	(4%)	3	(18%)
思わない	0	(0%)	0	(0%)
回答無し	0	(0%)	0	(0%)

④ 地域医療連携能力

	附属病院(n=26)		外部病院(n=17)	
そう思う	1	(4%)	1	(6%)
まあそう思う	6	(23%)	3	(18%)
あまりそう思わない	14	(54%)	9	(53%)
思わない	0	(0%)	0	(0%)
回答無し	5	(19%)	4	(24%)

⑤ 倫理的態度

	附属病院(n=26)		外部病院(n=17)	
そう思う	5	(19%)	3	(18%)
まあそう思う	19	(73%)	9	(53%)
あまりそう思わない	2	(8%)	5	(29%)
思わない	0	(0%)	0	(0%)
回答無し	0	(0%)	0	(0%)

⑥ 教養に裏付けられた品格を備えた態度

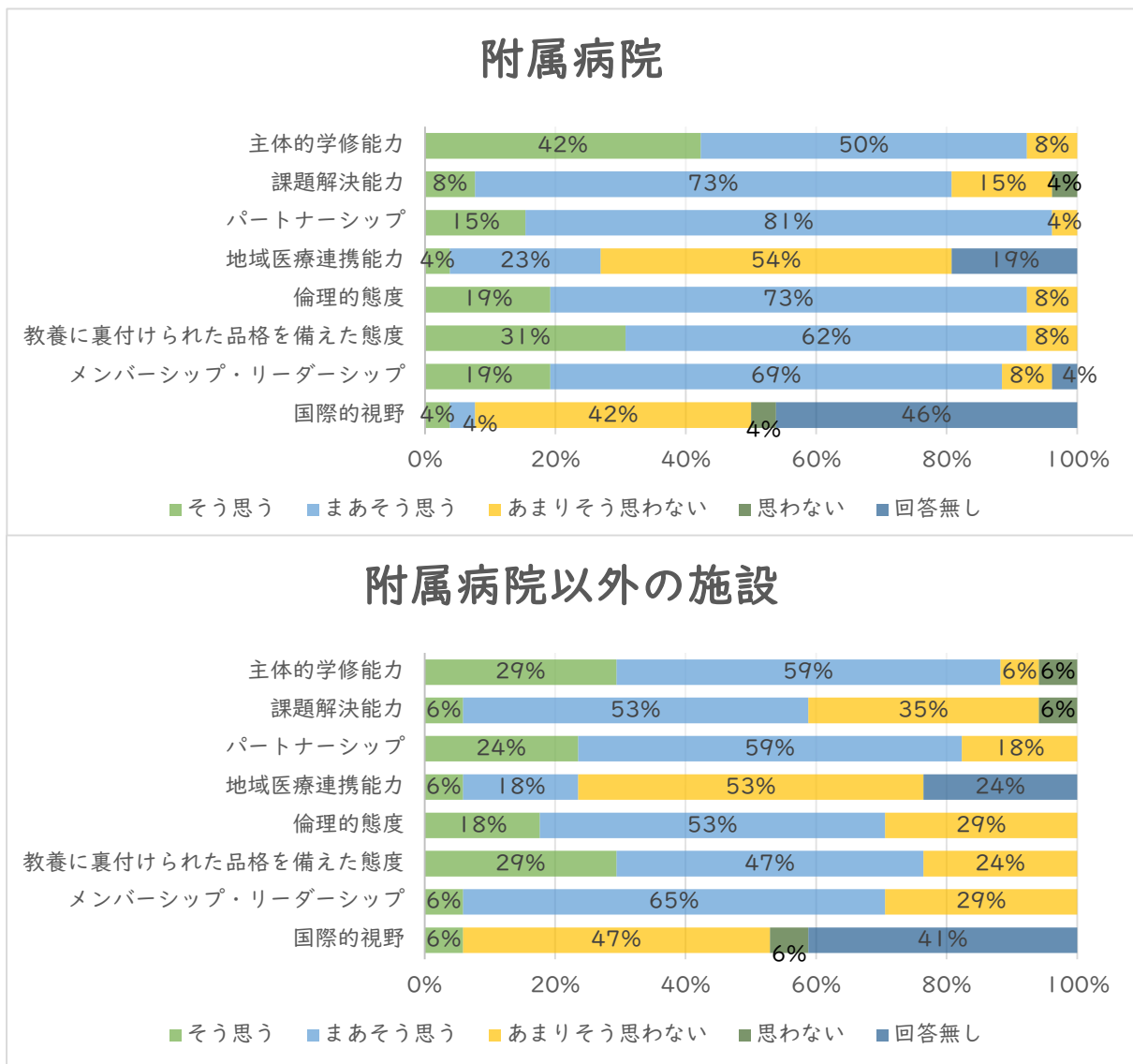
	附属病院(n=26)		外部病院(n=17)	
そう思う	8	(31%)	5	(29%)
まあそう思う	16	(62%)	8	(47%)
あまりそう思わない	2	(8%)	4	(24%)
思わない	0	(0%)	0	(0%)
回答無し	0	(0%)	0	(0%)

⑦ メンバーシップ・リーダーシップ

	附属病院(n=26)		外部病院(n=17)	
そう思う	5	(19%)	1	(6%)
まあそう思う	18	(69%)	11	(65%)
あまりそう思わない	2	(8%)	5	(29%)
思わない	0	(0%)	0	(0%)
回答無し	1	(4%)	0	(0%)

⑧ 国際的視野

	附属病院(n=26)		外部病院(n=17)	
そう思う	1	(4%)	1	(6%)
まあそう思う	1	(4%)	0	(0%)
あまりそう思わない	11	(42%)	8	(47%)
思わない	1	(4%)	1	(6%)
回答無し	12	(46%)	7	(41%)



① DP1 主体的学修能力の自由記載

	附属病院	外部病院
高評価	<ul style="list-style-type: none"> ICU での高度医療に対して積極的に取り組んでいる。 自己学習を行った形跡が業務や言動に反映され、看護実践と本人の成長につながっている。 外部研究を含めて前向きに取り組んでいる。 集中治療室の看護をする上で必要な知識・技術は 	<ul style="list-style-type: none"> 自己学習をきちんと行い、わからないことをそのままにしない。 分からない所は主体的に先輩や認定NSに聞くなどできている。 自分の将来像を描き、表現することができる。都看協の研修で学ぶ姿勢がある。

	<p>積極的に学ぶ姿勢がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己学習に限らず、院内研修を通じた学びを生かし実践力向上を図っている。 業務を遂行する上で必要な知識を主体的に得る事ができる。 不明点を自宅で自己学習している。 研究課題に対する積極性が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> D2の自己のあるべき姿の想像や長期計画されたキャリア目標などを現時点で考えることは難しいと思う。 行うべき課題について、自ら学ぶ姿勢はある。 勉強会に積極的に参加し、自ら準備に取り組んでいる。 できる事、出来ない事、やりたい事をリーダー。メンバーに伝えることが出来る。 アセスメント能力を高める為の自己学習に努めていました。 ある程度の事前セッティング、動機づけが必要である。 分からない事、学習していない事は言われなくても自主的に学修している。
低評価	<ul style="list-style-type: none"> 目の前の課題で手いっぱい。 言われてから動くことが多い。(全てにおいて) 	<ul style="list-style-type: none"> 自己研鑽を続ける看護職は自分に向いていないと退職を希望している。会社勤務をしたいそうです。

② DP2 課題解決能力の自由記載

	附属病院	外部病院
高評価	<ul style="list-style-type: none"> 課題を解決するために何を習得すれば良いか、誰に相談するのか筋道をたて思考することが出来る。 主体的に看護研究に参画している。 自分なりに考え、先輩に報告・相談できている 発想力を含めて知識を出すことはできる。 患者の状態をアセスメントし対応している。 与えられた課題に対して、しっかり調べることは出来る。 	<ul style="list-style-type: none"> ケーススタディを通して課題を明らかにし、解決する力を学んでいる。 課題に気づき、取り組む姿勢があるが、複雑な状況ではサポートが必要。 業務に関して、助言は必要だが、問題を見出し解決する力は備わっている。 経験したことだけでなく、過去の研究や臨床実践の書物など、知識を深めると良い。 研修課題、研究に真摯に取り組む姿勢あり。思考力が高い。 掘り下げる能力は優れているが、広い分析視野についてはいまだ成長途上。 解決しようとするが、持続性はない。
低評価	<ul style="list-style-type: none"> 課題を見出す事は出来ていると思うが、解決にいたるにはサポートが必要である。 看護研究への取り組み無し。実戦での課題に対し、他者の力は借りられる。 特に発揮されていない。 2年目なので目の前の課題で手いっぱい 	<ul style="list-style-type: none"> PNSのグループ、パートナーに支援を受けながら、課題解決を行っている。 知らない事を知っているかのように実践する事が多い。

③ DP3 パートナーシップの自由記載

	附属病院	外部病院
高評価	<ul style="list-style-type: none"> 周りを見ながら自分がどう行動すれば良いか考え実践できる。相手の状況を察して行動できている。 患者さんを尊重し対応している。 協調性があり、相手の思いを大切にされた関係性を築くことが出来る。 チームメンバーと連携することは出来ている。 寄り添う思いはある。 コミュニケーションを取りながら業務にあたっている。 説明(説得)はできるが、相手の状況を理解して対話する力は未熟(経験不足) 	<ul style="list-style-type: none"> 患者に倫理観高く関わっている。 対応困難や、身体合併症を併発があっても、患者様主体に関わっている。 患者・家族とコミュニケーションをとり、一緒に看護計画を考えている。 チームで協働できる部分と現代っ子らしいドライさがあるが、良い関係を築けている。 チームでの活動が必須の部署であるので、多職種との協働に努力が必要。 患者を中心としたケアについてはよく考えられている。 報告・連絡・相談し情報を共有している。
低評価	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションが得意ではなく、なかなか自分の意見を表現することができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ネガティブな発言が聞かれる。 同期とも退職したい事を話せておらず、本音で話せていない。

④ DP4 地域医療連携能力の自由記載

	附属病院	外部病院
高評価	<ul style="list-style-type: none"> SW や保健所と連携し、退院後を整えている。 知識として理解している部分と実際の地域との協働は実践の場で理解を深めている。 地域医療との連携の必要性は理解している。実際に協働するにはサポートが必要。 現在は助産師技術の習得が中心だが、次年度以降、外来連携を強くする方向。 	<ul style="list-style-type: none"> まだ理解は出来ていないが、受け持ち患者を通して学ぼうとする姿勢は良く見られるようになった。 医師や PSW まで他職種と積極的にコミュニケーションを図り協働できている。
低評価	<ul style="list-style-type: none"> まだまだ理解には至らない。 自らが立場に立ったやりとりをしている。 実践レベルとして、まだ在宅調整が出来ない。 ICU のため家族や SW との関りは少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 判断材料無し 地域を見据えた実践を発揮する機会が少ない。(師長の働きかけ不足) 手術室勤務であり、学習の機会が少ないため課題である。 実務で経験できないため意識して学ぶ必要がある。 まだリーダー役割を担っていないので自ら考える連携は無いが、方針に合わせた行動がとれる。

⑤ DP5 倫理的態度の自由記載

	附属病院	外部病院
高評価	<ul style="list-style-type: none"> 態度や倫理観あり。PT を理解し看護している。 患者の思いを尊重し丁寧に接している。 対象の理解は今後深めていく必要があるが、自分は何をすれば良いと考え実践している。 患者にとっての最善を考える上で、先輩の指示待ちになりやすい。 患者中心の実践。倫理カンファレンスへの参加。 児の思いを大切にしながら、日々、看護実践している。 何が倫理的な問題なのかを意識できた段階である。これから更に意識を高めていけると思う。 研修を通し、対象を捉える力を強化している。 対象の価値に各実寄り添えているとは限らず、自己の価値が強い時もある。 相手の立場にたったやりとりをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 陰性感情を抱きがちな対象であっても礼節と接遇を伴った対応を出している。 ややドライな態度もあるが、終末期医療や緩和ケアに関心を持っています。 理解しようとする姿勢は見られる。 倫理的に問題と感じるところがあり、研修で学んでいる。 相手の思いを考え行動できる。
低評価	<ul style="list-style-type: none"> 倫理を考え行動しているか不明 	<ul style="list-style-type: none"> 倫理的視点を持っているが、カンファレンス等での発言までは出来ていない。 日常業務の中に倫理観をなかなか見出すことが出来ていない。 一般的なことだけでなく、患者の個々を捉えられると良い。 業務が優先で患者主体ではない。 自分の事を優先し、周囲の事に配慮できていない。

⑥ DP6 教養に裏付けられた品格

	附属病院	外部病院
高評価	<ul style="list-style-type: none"> 誰でも素直に笑顔で接することが出来る。 言葉遣いに気を付けている。 当初は感情表現が乏しいことを危惧したが、慣れた事で自己表現ができています。周囲に左右されることなく的確な判断と行動が出来ている。 問題なく行動できている。 勤務態度は良好、礼節を守ることができる。 常に冷静である。 	<ul style="list-style-type: none"> よくできている。 倫理や接遇についての実践的な教養を、今後深化していただけたらと思う。 患者・家族・同僚に対して相手を尊重した態度で接していました。 適度ある(適切な)態度、声掛けが出来る。 チームナンバー、多職種間と良好な関係を保っている。 礼儀正しい振る舞いが出来ている。 教養は身につけているが、人を慈しむという人間性はまだ弱い。 挨拶など礼儀が出来ていない。
低評価	<ul style="list-style-type: none"> 無意識でなれ合いの態度になり易い。 自分主体になる事も多くある。 	<ul style="list-style-type: none"> 本人はそのつもりはありませんが、途中で終了したり、患者により対応が丁寧でない指摘されることがあります。

⑦ DP7 メンバーシップ・リーダーシップ

	附属病院	外部病院
高評価	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーシップはまだとれないが、メンバーとして協働できる。 ・チームでどう行動するか理解した上で協働出来ている。後輩にも否定せず2年目として可能な指導を実践している。安定感があり、リーダーは安心できる。 ・周りに意識を向けられている。先輩・後輩の立ち場に応じて行動できている。 ・メンバーシップは部署に留まらず組織として発揮できている。 ・チーム内での自分の役割を意識して行動できる。 ・チームで声掛けあい協働できている。 ・産科チーム内で協働できる力を養っている段階。リーダーシップに課題がある。 ・メンバーの役割は発揮している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲を見て自らの行動を考えられている。 ・2年目となり発言できるようになった。 ・チームで協働できる部分と現代っ子らしいドライさがあるが、良い関係を築けている。 ・報・連・相は適切にされていました。 ・PNS ペアと共に協働している。(能力に応じた) ・メンバーとしての役割は行うことができる。 ・1名は自己責任・役割を理解してはつきできている。もう1名はこれから学ぶところだ。
低評価	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム内で協働することに慣れず、一人で動く傾向が強い。定期的な面接で、課題として共有し改善に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手なスタッフがおり、感情面を切り離して合理的な看護や業務にあたる力が不足。 ・リーダーとしては未経験のため結果は出せていない。 ・同期が6名いるが、いくつか協働作業を依頼した事に自ら行動する事がなかった。

⑧ DP8 国際的視野

	附属病院	外部病院
高評価	<ul style="list-style-type: none"> ・英語力を活かし、円滑なコミュニケーションで不安軽減を図ることが出来る。 ・将来的に目指しているとの事で、目標が高く、仕事への意識も高い。 	
低評価		<ul style="list-style-type: none"> ・経験機会に乏しい。機会が無い。(師長の働きかけ不足) ・興味があるか不明。 ・日々の業務に追われ余裕がない様子である。 ・視野を持った行動、目標管理シートでの関心事として挙がっている。

2) 卒業生の看護師としての能力の強みについて (事象や理由) * 附属病院は黒字、外部病院は青字

①主体的学修能力に関する強み

- ・ 志のある方は、とても努力家・勤勉家である。看護に誇りをもって仕事・自己研鑽している。
- ・ わからない所は必ず調べて取り組んでいる。
- ・ 主体的学習能力は他学卒業のスタッフよりも意欲が高く、常に学ぶ姿勢が見られる。
- ・ 分からない事や、はじめてのことは必ず自己学習しており、自己学習をすることが身につけている。後輩の手本となっている。
- ・ 指摘に対して考え、消化し次につなげられる。看護観を1年1年深められる。
- ・ 自己学習ができる事。

②課題解決能力に関する強み

- ・ 集合研究の課題の取り組み方、指導後の解釈方法はスムーズだと思う。
- ・ 習慣的に行われていることに対して、必要性を考え行動できる。新しい物を取り入れていく柔軟性と進化を求めた行動が取れる。
- ・ 自分の看護の不足について真摯に向き合う力がある。看護過程の展開で現状に甘んじることなく、もっとこうすれば良かった等、様々考えることが出来る。
- ・ 良く学び実践に結び付けようと努力する。(勉強する)文章力がある。

- ・ 患者ケアの必要性は根拠を考えて実践しようとしている。理解が深まる事で、看護する事の楽しさを感じており、さらに学びたいと意欲を高めている。
- ・ 自己学習を行い、知識を深め、それらを実践に活かすことが出来る事が強みだ。患者の細かい様子に視点が向き、実践した看護を考えていた。様々の視点で物事を見つめることが出来る事は強みだ。
- ・ 起きた事柄に対して前向きに取り組み、途中で投げ出すことなく解決するために動くことが出来ている。
- ・ ICU 現象・症状と客観的データから身体的アセスメントを行い、必要な看護を考え、実践・評価することはできる。(強み)
- ・ 特定行為のできる看護師を目指し、その目標に向かって知識・技術の習得に前向きである。
- ・ 思考力がある。
- ・ 自己の曖昧な判断が患者へ及ぼす影響など、リスクについての視点は持っていました。
- ・ 患者対応や多重タスクで困難な状況に陥っても冷静に前向きに行動できる力は優れている。
- ・ 落ち込むことがあっても上司に話し、必ず次の日には「頑張る！」と言う気持ちになっている。前向きになれる。

③パートナーシップ能力に関する能力

- ・ 患者の立場に立つことが出来ている。
- ・ 出来る事が限られる中で患者の立場で工夫しようとする思いがある。
- ・ 患者の思い、スタッフの意見交換など相手の話を聞くことが出来る。
- ・ 相手の立場に立つ能力に優れている。
- ・ 患者さんの声に耳を向け、寄り添う、患者さん主体の看護。
- ・ 患者主体の看護ケアを実践出来ている。
- ・ 患者に寄り添う姿勢、丁寧に関わろうとするところ

④メンバーシップ・リーダーシップに関する能力

- ・ 他者の力を上手に借りながら看護実践していける力がある。
- ・ イキイキと笑顔で働き、チームでの一員として協働する力がある。
- ・ 思ったことを率直に表現できる、自己の考えの表現力がある。
- ・ グループワークが多かったので意見を述べる場が多く、それは臨床の現場で、チーム内で話し合う際に活かされている。
- ・ 患者の思い、スタッフの意見交換など相手の話を聞くことが出来る。
- ・ 何か問題がありそうだと感じた時に、うやむやにせずに他者とディスカッションに繋げる力がある。
- ・ 協調性があり、チーム内でのトラブルが無い。
- ・ チームワーク・メンバーシップが発揮できる。
- ・ 明るく周囲と協働する力がある。周りに流されず、行動や発言することが出来る。
- ・ 自分の意見を述べる事も出来ていました。

④地域連携能力や国際的視野に関する能力

- ・ 外国人の分娩が多く、言葉の壁で妊婦・家族の不安が大きくなる現状だが、彼女の語学力と寄り添う力から不安が軽減できている。

⑤倫理的態度や教養に裏付けられ品格ある態度に関する能力

- ・ 自らを客観視し課題に取り組むことが出来る。
- ・ 看護師としての倫理的配慮を持ち、思考し、患者と関わる事が出来る。
- ・ 冷静な立ち振る舞いが出来る事で信頼につながりやすい。
- ・ 相手の立場に立つ能力に優れている。穏やかである。
- ・ 人に対して態度がどの人に対しても平等であり、態度良く接することが出来ている。患者のことを考えて行動出来ている。
- ・ 礼儀正しく相手を思いやる気持ちがある。
- ・ 人に対する優しさ。患者との接し方について、優しく接している。
- ・ 患者に対してとても誠実に関わられる。社会人としての礼節、マナーが心地良い。
- ・ 率直な態度のため、優しさが伝わりにくいのではないかと心配だが、倫理的な姿勢や思いやりはあると思う。

3) 卒業生の能力から、看護学科における教育で改善すべき点や、在学中に身につけた方が良いと考えるスキルや能力について *赤が附属病院, 黒が外部病院

①主体的学修能力に関する強み

- ・ 専門職業人になる自覚。レジリエンス。
- ・ 積極性と自ら考える力。
- ・ 実践能力や技術力

②課題解決能力に関する強み

- ・ 困難感を感じた時も看護の本質に立ち返り、前向きに取り組む、自己研鑽できる力は必要。
- ・ K Y T (危険予知訓練) 能力。実習での関りが少なかったからか、K Y Tを臨床バージョンで行っていただければと、と思う。
- ・ 学科卒業生で共通していることは、分からない事に対する探究心が強いので自主学習をまとめる力は長けている。学生の実習レポートを読んでも同様である。但し、臨機応変に対応できる柔軟性は学生から身につけた方が良い。
- ・ 病態の理解をもっと深める。
- ・ 学科卒に限らないが、助産技術・分娩・乳児管理に視点が向きがちであるが、高齢・合併症・核家族によるサポート不足などの問題に統合して支援する視点の教育が必要。
- ・ 精神面でのたくましさや、柔軟性の素地がより必要。

③メンバーシップ・リーダーシップに関する能力

- ・ 苦手なタイプの人に接する際のコミュニケーション力(自己を客観視しながら対応する能力)
- ・ コミュニケーション能力と積極性。コミュニケーション力の強化。

- ・ 自分が良いと思っても、相手が良いと感じていないこともある。否定ばかりしないで、相手の思いが分かるように聞こうと切り替える前向きな姿勢をみにつけてほしい。
- ・ 对患者、スタッフ間のコミュニケーション力ですが、今の状況では実習が制限されているので、現場での教育に力を入れなければと思います。
- ・ 自分主体になりがちであり、自信が強く出る時がある。自分の意見と相手の意見を合わせて良い物を生み出す考えを持てるようお願いしたい。
- ・ 社会人基礎力-コミュニケーション力は強化すべき。
- ・ 社会人基礎力 リーダーシップ
- ・ 実習の機会が少なく、入職時は患者への対応がなかなか大変で難しいと感じていたのも、コミュニケーションをとる機会が増えるといいと感じている。
- ・ メンバーシップ。職業人として積極性がもう少し出せると良い。
- ・ リーダーシップ、自ら発信できるようになることは課題と感じています。スタッフの個性もあると思いますが。

④地域連携能力や国際的視野に関する能力

- ・ 地域と病院がどう連携しているのか知っておいた方が良い。

⑤倫理的態度や教養に裏付けられ品格ある態度に関する能力

- ・ 自分の権利・主張が強い。専門思考が強い事は良いが、それに沿わない事も初学者はある。
- ・ 職業を継続していくためにどうしたら良いか考えるスキルが必要であると思います。大変だから辞めたい、こんなはずではない、やってみて無理ならならばやめれば良いと言うようなことでは教える方も困ってしまいます。
- ・ 臨床で活用できる倫理観についてスキルアップできると良い。
- ・ 倫理的な側面を身につけた方が良いと思う。実習も少なくなり会話が出来ない事で学びが少なく、現場に入ったときのギャップが大きいことが、入職時の精神的ストレスの中で感じられた。

その他

- ・ せっかく実習に来ていても、ペーパー講義はもったいないと考える。
- ・ 今のままで十分素晴らしいです。
- ・ 看護に必要な知識・技術・態度、全ての面で AAA 以上のアビリティやポテンシャルを備えている。

4) 卒業生のスキルや能力、特徴について

- ・ 在りたい姿は問題ないと思うが、コロナ禍で現場に行けなかった影響は少なからずある。
- ・ D5, D6, D2 に関して 2 年目として十分備わっている。
- ・ D7、学科だけではないが、とにかくコミュニケーションが取れない。
- ・ 研修も継続受講し主体的に取り組んでいます。
- ・ 多角的な視点で考えることが出来る。学んできたスキルを発揮できる場や、さらに学習を積み重ねるための現場の指導体制の仕組み作りも必要だと感じた。

- ・ 寄り添う思いはある。
- ・ ビジョン(将来の方向性)が明確である。
- ・ 卒業校のカリキュラムなどに関係なく、患者の言動や反応の裏にある真意を捉える力が弱いと感じる。見える事だけで判断する為、相手に声をかけたりする力が弱い。臨床経験必要。
- ・ 学科の DP の視点を知り、8つの学びを生かせるように現場教育して行きたい。
- ・ 非常にまじめで品格もあり接遇が身につけています。患者様への配慮ができ、寄り添う看護ができる人材です。今後、更に向上心や強さを持ち、リーダーシップを発揮できることを期待しています。
- ・ まだ2年目なので、DP の能力で目立つものは少ないが、D1、D2 に関しては高い。
- ・ 特に他の大学に比べて違いは感じられません。8つのディプロマポリシーがしっかりと身につけてきているようには思えません。知識としてはあると思いますが、それが実際に現場の中のどことむすびつくのか分かっていないかもしれません。
- ・ 海外での活動を考えていたスタッフでもあり、「国際的な視野」を持っていると思う。大学として力を入れて取り組んでいることも多大な影響があったのではないかと推察されます。
- ・ 外来勤務なので、外来ではまたきちんと PNS をおこなっていませんが、一緒に勤務しているスタッフ、後輩のことを気にかけてながら協働して勤務していると思う。
- ・ 全体的に学びを活かしていると感じている。
- ・ 自ら学び考える力が備わっていると感じている。
- ・ D5:倫理的姿勢は特に重要。自己を内省する機会を持たない新人が増えて来ている。看護は「人間対人間」、自己を知る、内省する力が看護力・人間を理解することに繋がるので、強化していただきたい。
- ・ 基本的な挨拶などが社会人としてない。また、看護実践のわからない部分は確認しないなどの行動をとる事が多い。
- ・ バランスの良さ、偏りのない能力は様々な疾患・背景・個別性を持つ患者へ看護を実践するアドバンテージとなる。独自性があれば期待を超える成長ができる。

5) 大学に伝えたい事

- ・ 臨床で起きるギャップが少なく出来ると良いのですが。(思い描いている姿と自分のありよう、できない自分、臨床の〇〇と理想など)何か策があればと思います。実習だけではどうにもならない。
- ・ 慈恵に就職してもらえよう頑張りたいと思いますので、ご協力お願いいたします「〇〇をしたい。させなきゃいけない。」ではなく学生がどうしたいのかを確認し、学べる教育環境でありたい。ベッドサイドケアを教員と展開ができると、もっと関係性の構築が出来ると思います。
- ・ 実習が少ない中ですが、臨床の場を感じながら学生が成長できるように実習を受け入れる側も整えて行きたいと思います。
- ・ 担当教員と話す機会が増え、情報共有する事が学生指導だけでなく新人教育にもつながっています。共有した情報を年齢差のあるリーダー層に伝えることで、自分が受けてきた学習を押し付けるのではなく、効果的な指導を考えるきっかけになっています。
- ・ 学生時代から卒後まで、共に教育・育成の力を入れていければ良いと思っています。病棟への

ご意見・お気付きの点は何なりとお伝えください。今後も、よろしくお願いいたします。

- ・ 卒業生の評価をして次につなげているのは素晴らしい。職場に送り出す際に、学生の強み弱み等がわかれば継続的な育て方が分かり易い。今回、このポリシーで学習してきたことを知りました。2年目では実践出来ているかは分かり難い。
- ・ 病院で看護をしたくて看護師を目指す人ばかりでない事は予想しています。そういった方を総合病院に就職させることはやめて欲しい。現場で看護師を育てるのは大変で色々配慮しているが2年足らずで転職を希望するような方は困ります。実習が少なかった事も影響しているのかもしれない。
- ・ とても一生懸命勤務しており、頑張っていると感じています。
- ・ 卒業生、皆元気でステキなNsに成長しています。
- ・ ディプロマポリシーは経験年数、実践能力により差があると考えました。卒後2年目のDPのレベルは何を基準として良いか迷いました。
- ・ 他学と比して、双方向の「コミュニケーションの機会が多く、教育面のアップデートもしっかりしているので模範的で効果的である。

4. 点検・評価と改善点

今回の調査では、卒後一年目の7-8か月経過した段階で評価するのは難しいとの意見があり、卒後2年目を対象とした雇用者による評価を行った。雇用者アンケートが4年目を迎え、附属病院や、多くの卒業生が就職する外部施設への調査が定着してきていると考える。また、附属病院からの回答では、臨床教員制度の導入により、学科での看護教育に対しての参画・協働が得られ、学生実習を受け入れる際の影響もあるのではないかと推察できるも内容もあり、看護実践能力をどのように育成すべきか、変革する時代の要請に合致した教育体制を構築する必要があるだろう。また、高評価と低評価の自由記載内容を見てみると、卒業生個々の能力や特性の発揮に必要な、積極性やコミュニケーション能力、社会人基礎力の基盤づくりとなる機会が必要ではないかと考えた。

ディプロマポリシー別に評価内容を確認すると、DP4「地域医療連携能力」DP8「国際的視野」では、実際に能力があるかは業務の中で機会がなく評価が難しいという「回答無し」の回答が多かったが、自由記載欄から素養が無いなどの否定的な意見は無かった。高評価を得た卒業生は、地域連携への働きかけに高い関心をもって努力したり、語学力を活かした看護実践が行えたり、着実な看護実践能力を研鑽できている卒業生が活躍する一方で、地域連携のシステムに関する学びを深められるカリキュラム強化を希望する返答や、国際看護実践に興味があるのかさえもわからない、といった相反するネガティブな評価もあった。今後は臨地実践能力としての基盤づくりとして、本学での学びを強みとして発揮できるような一般的な能力の醸成に寄与できるよう、学習機会を提供し、指針をもってその能力を評価していきたい。

概ね高評価だった項目は以下の項目であった。

DP1「主体的学修能力」、DP3「パートナーシップ」の項目では、附属病院・外部病院施設問わず、卒業生は所属長から概ね高い評価を得られていた。少人数で学びを進め、ディベートやグループワークなどを多く取り入れる本学科の教育システムで醸成された対人基礎力や対自己基礎力など周囲の環境と良い関係を築く能力は評価されているとも考えられる。

DP5「倫理的態度」、DP6「教養に裏付けられた態度」、DP7「メンバーシップ・リーダーシップ」の項目では、附属病院に就職した学生は自身の力を発揮し、所属長からも高い評価を得られる傾向にあるが、外部病院では今後の発揮を期待するという評価も多かった。附属病院では、学年間交流や共修授業、学生生活などの中で築いた人間関係があり、加えて、学生時の実習フィールドでもあり、慣れた環境の中で能力スキルの発揮ができていいる可能性がある。外部病院では2年目という経験年数が浅い段階では調和以上の想像的主導的な発信力は発揮できていない傾向にあるとも考えられる。

DP2「課題解決能力」は、附属病院では8割ほどが業務にかかわる姿勢に活かしていると回答があったが、外部病院では6割弱だった。附属病院では、どの部署を希望する、という明確な目的をもって就職するが、外部病院では就職時に「この病院に就職する」という大目標をもって入職試験に臨み、各部署で能力を発揮している。外部病院に就職する学生には、就職した際に更に配属された部署で自身が何を目的としてどのような実践を推進しようとしているのか、明確な目標をもち、自身の能力を開発することができるような発信を在学中から進め、環境に慣れることからスタートする卒業生に指南を仰ぐような機会も必要だろう。

よって、看護学科で卒業時に求める8項目のDPのうち、「地域医療連携能力」「国際的視野」を除く6つのDPに関しては、概ね良好な評価を得られた。主体的能力やパートナーシップが高かったことは、PROG*で評価できる2種のジェネリックスキルのうち、とくに「コンピテンシー」に関連する能力が高いことがわかる。ただ、本学のカリキュラムを受講した3年生は、リーダーシップに関わる「統率力」や、メンバーシップなどに関わる「感情制御」に関連する能力が低いという結果があり、自由記載内容から本学の卒業生が強化すべき点についてご指摘いただいた内容と整合性がある。在学中から、少人数制で多くの学生と関わることのできる学習機会や学生生活を通して客観的で妥当な他者評価をする力、自己を内省する力を養い、自己の弱み、他者の強みに気づくことができ、社会的基礎力を向上できるような補完・強化が推進できる力が醸成される機会を作っていく必要があると考える。また、「リテラシー」にあたるような問題課題を提起する力はあるが、その解決方略を個々の強みの中から見出せるような人材を育成できるようにする必要があるだろう。

(*PROGとは、河合塾と株式会社リアセックが共同開発した、専攻・専門に関わらず、大卒者として社会で求められる汎用的な能力・態度・志向-ジェネリックスキルを育成するためのプログラムのこと。Progress Report on Generic Skills の略)

具体的な対策としては、e-portfolioへPROGの結果を掲載し、新年度実施する科目横断試験(CBT; Computer Based Testing)の結果と同様に成果物として集積し、各学年の看護総合演習の個別面談評価で振り返ったり、他者と共有できるデータとしていくことをICT推進委員会および科目担当教員へ検討を依頼したり、グループワークなどで行う学生間のピア評価で資料とするよう検討したり、就職試験の個人調査書への活用以外にもPROG試験導入後の運用・活用方法について確立していく必要があるだろう。

別表

1. 雇用者アンケート回答率年次推移

